

2016年度 第1回FD研修会実施報告

タイトル：授業内スタッツデータの活用と学習行動改善

発表者：経営学部 杉田 一真 准教授

日時：2016年5月27日(金) 17:00~18:00

会場：自由が丘キャンパス 1号館3階 1310教室

参加者数：78名 (内大学教員数：78名)



大学教育再生加速プログラム 本学は、文部科学省「大学教育再生加速プログラム(以下、APプログラム)」に、平成26年「授業内スタッツデータおよび学生の学習行動データに基づく深い学びと学修成果を伴った教育の実現」を掲げて申請し、採択を受けた。本学は、APプログラムにおいて、授業評価の結果等のみでは直ちに判明しない授業改善のポイントを可視化し、教育力の向上を図ることを目的に、授業内スタッツデータの測定を開始した。

授業内スタッツデータの活用と学習行動改善 測定した授業内スタッツデータ(①ムービングデータ、②パフォーマンスデータ)および③エリア別受講生態度、④授業後アンケートの結果は「フィードバックシート」にまとめられる。そして、フィードバックシートを材料として、授業改善がPDCAサイクルに基づいて実行される。まず、授業内スタッツ測定対象となった科目の担当教員は、測定前に「学習者行動改善シート」のPlan欄を記入する。Plan欄には、①測定対象となる授業回のねらい、当該授業計画に含まれる②学習者の興味を喚起する工夫、③学習者の集中力を維持する工夫、④学習者の理解を促し、知識定着を促進する工夫、⑤学習者の発展学習に向けた意欲を向上する工夫、⑥その他、学習者の主体的な学習を促す工夫、⑦学習状況の把握および活用方法を記入する。測定後は、測定結果を踏まえて「学習者行動改善シート」のCheck欄とAction欄を記入する。Check欄は、出席率や私語・居眠りの状況、授業後アンケートの結果などに関する自己評価を記入する。測定前のPlan欄の記入と、測定後のCheckおよびAction欄の記入により、授業計画(Plan)から授業実施(Do)、授業内スタッツデータの測定・分析(Check)、授業改善アイデアの検討・実施(Action)というPDCAサイクルに基づく授業改善を加速することが期待できる。

FD研修参加者のワークシート記載内容にみる授業改善アイデア 本FD研修会では、いかに授業内スタッツデータを授業改善に役立てるかについて活発なディスカッションが行われたが、その中で、授業設計・運営上の改善アイデアも共有された。以下にその一部を抜粋して紹介する。

<p>1. 学習者の興味を喚起する工夫 最近、話題になっているニュースを取り上げる／新聞や雑誌の記事を配付する／学生にとって身近な事例を取り上げる／映像教材を用いる／講師が自身の体験談を通じて、当該科目を学習する意義を伝える／授業内容が将来役立つものであることを示す／授業冒頭、当日の授業で扱うトピックを一覧で提示する</p>
<p>2. 学習者の集中力を維持する工夫 学生への問いかけを頻度高く行う、突然指名する／ピアインストラクションを実施する／雑談を挟む、笑い・ユーモアを交える／学生の意見を否定しない／予め何分レクチャーするか、事前に時間を知らせる／小グループに分けた上で、グループ間で解答時間等を競わせる／書く時間、読む時間、ディスカッションする時間など、授業を短時間のモジュールに分けて構成する／レクチャーとアクティブラーニングを交互に細かく組み合わせる授業を構成する／知識の修得と活用を目的としたプログラムをバランス良く組み合わせる授業を構成する／授業中ランダムなタイミングで、出席確認を兼ねたミニレポートや小テストを実施する／仲の良い友達同士でグループを組ませない／優れた課題レポート等を提出した学生に発表して(読んで)もらう／科目の到達目標やルブリックを示し、学生が当該科目で身に付ける知識・スキルを明確に認識できるようにする／定期試験で手書きノートのみ持込可とする／ワークシートを配付する／机間指導を丁寧に行う</p>
<p>3. 学習者の理解を促し、知識定着を促進する工夫 ポイントは、繰り返し説明する／授業冒頭で前回授業の内容を振り返る／授業外学習として、授業内容を振り返るような課題を出す／manaba上で小テストを実施して、学生の理解度を把握し、必要があれば授業中に補足説明を行う／授業中にミニテストを実施して、学生の理解度を把握しながら授業を進行する／リフレクションシートの記入など、知識の整理・定着を図る時間を設ける／他科目で修得した知識と授業内容を結びつける／学生に「自分自身がわかっていない点」を整理して表現させる／映像教材を用いる／具体的な事例を数多く紹介する／授業がある程度進行した段階で、小活やまとめを挟む／期末試験での出題をほめめかす／提出された課題に対して丁寧にフィードバックを行う</p>
<p>4. 学習者の発展学習に向けた意欲を向上する工夫 発展学習と位置づけることができる科目名を示す／発展的な内容を含む授業外学習課題を出す／発展学習に適したテキストや参考文献を提示する／学生が自己成長を実感できるように、プレ/ポストテストを実施する／講師が自身の研究成果や今後の研究計画などを熱っぽく話をする／Student Assistant(SA)を務めてもらう</p>
<p>5. その他、学習者の主体的な学習を促す工夫 卒業論文を課す／発言した人を褒める／理解の遅い学生のフォローを丁寧に行う</p>